



平成30年 7月26日

報道関係各位

岩手県立大学戦略的研究プロジェクトの創設について

岩手県立大学では開学 20 周年を機に、本学の研究力を一層強化しながら、その研究成果を地域に還元することにより、広く岩手県の産業・経済の活性化、生活レベルの向上、イノベーションの創出に貢献するため、標記研究プロジェクトを創設いたしました。

つきましては、下記の日程で報道発表を行いますので、当日のご取材・報道等についてよろしくお願ひします。

記

1 日時

平成 30 年 7 月 31 日 (火) 13:00～14:00

2 場所

岩手県立大学本部棟 3F 大会議室

3 内容

- (1) 学長挨拶
- (2) 戦略的研究プロジェクトの概要説明
- (3) 各研究チームによるプレゼンテーション

4 研究チーム

- (1) 自分らしく生きることのできるまちづくり
- (2) インテリジェント・ファクトリ
- (3) マルチモーダルインターフェース
- (4) 北国IoT
- (5) 東日本大震災津波被災地における食産業クラスターの新展開

【問合せ先】岩手県立大学 研究・地域連携室 中村

TEL : 019-634-3330 FAX : 019-694-3331



研究チーム概要

研究チーム	リーダー	概要
自分らしく生きることのできるまちづくり	社会福祉学部 教授 小川 晃子	元氣な高齢期を過ごすために、また認知症や要介護になっても最後まで自分らしく生活ができるように、新たな環境整備策を開発する。その際には、AI やIoTを活用した見守り等も検討するが、地域でそれを実装するための社会技術の開発を行う。
インテリジェント・ファクトリ	総合政策学部 准教授 近藤 信一	業務効率を高めながら顧客体験価値の高い製品・サービスの創出を目指した柔軟なものづくりを実現するために、IoT・人工知能等の先端技術の導入による生産・物流現場のIT活用の高度化、非定型業務の自動化および意思決定の自律化を進め、次世代型RPA(Robotic Process Automation)を構築する。
マルチモーダルインターフェース	ソフトウェア情報学部 准教授 プリマ オキ ディッキ	本研究は、深層学習と動画像処理技術による3次元計測技術やウェアラブルセンサによる関節各部の計測技術を開発して、人におけるマルチモーダルな身体表現の特徴を明らかにする。それにより、リハビリ効果の評価手法確立、スポーツの成績向上、非言語コミュニケーション支援などに取り組み、社会に貢献する。
北国 IoT	ソフトウェア情報学部 准教授 新井 義和	北国に特有な「交通分野」、「生活環境分野」、「農林水産分野」および「観光分野」の各種課題に対して、「クラウドセンシング」、「人工知能」、「ビッグデータ」、「モビリティ」、「ロボット」および「次世代無線ネットワーク」の各分野の要素技術を結集することによって解決を目指す。
東日本大震災津波被災地等における食産業クラスターの新展開	総合政策学部 准教授 新田 義修	岩手県沿岸地域の漁業・水産業は、産業基盤である。本研究では、主に水産加工業を主とした食産業における競争力強化の要因の特定、および企業間の連携によるシナジー効果について、バリューチェーンの再構築による販売力強化に着目し、地域の加工・流通業者の食産業クラスターに関する研究を行う。